

神戸大学 世界展開力強化事業

ベトナム国立バックマイ病院での卒業研究研修体験レポート

神戸大学医学部保健学科 作業療法学専攻 3回 上條夏実

《はじめに》

ベトナムにはまだ作業療法の学校がなく、青年海外協力隊（JOCV）が2004年から派遣されているが学科設立には至っていない。だがベトナムも日本より速いスピードで高齢化社会を迎え、医療では作業療法を望む声も少なくない。病院には作業療法室があるところも多いが、理学療法士や看護師が作業療法を行っているのが現状である。そこで、卒業研究としてハノイの病院に所属するリハビリテーション科スタッフに、作業療法に対する意識について現地調査を行った。

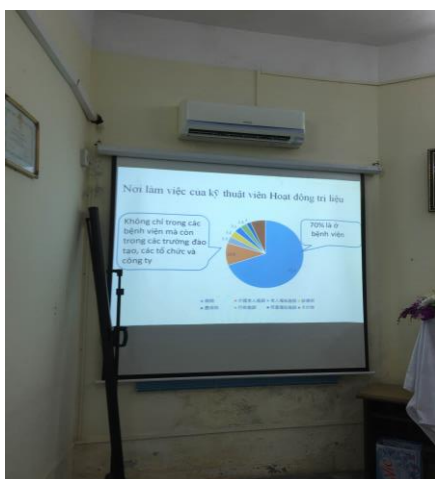
今回の研究研修は9月11日～24日の2週間で、もう1人の研修生の林佳世子さんと2人で国立バックマイ病院にお世話になった。研修ではアンケート調査実施だけでなく作業療法室見学・実習を経験させていただく機会を得た。また国立バックマイ病院のリハビリテーション科スタッフに、日本の作業療法についてプレゼンテーションを行った。

《アンケート調査について》

アンケート内容は大きく分けて①作業療法の内容②作業療法の対象疾患③作業療法で使用する評価④作業療法で使用する訓練用具⑤作業療法に関する情報の得方、の5つで、特に①～④はそれぞれに対する考えと実際の内容の2パターンを質問し、ベトナムの医療スタッフの作業療法に対する意識と実態を調査した。アンケート結果は現在解析中のため結果はまだわからないが、特に考えの方の質問に対して無回答が複数見受けられた。その原因として、アンケート項目や選択肢の多さも一因であるだろうが、作業療法に対する情報・知識不足が大きく関わっているのではないかと考えている。

《プレゼンテーションについて》

国立バックマイ病院には作業療法室があり、ベトナムの中でも作業療法に対する認知度は高いが作業療法に関する情報は不足している。そこで日本の作業療法についてリハビリテーション科スタッフに向けてプレゼンテーションを行い、作業療法についての理解を深める一助になればと考えた。プレゼンテーションは林さんと2人で行い、私たちが英語で話した内容を、通訳を介してスタッフに伝えてもらった。内容は①作業療法の概要②作業療法実施の流れ③作業療法の症例、の3部構成にした。プレゼンテーション後、大変興味深い内容だったなどの感想を頂き、作業療法への理解を深めるきっかけになれば嬉しいと思う。



ベトナムでのプレゼンテーション



プレゼンテーション後スタッフと

《病院見学・実習について》

国立バックマイ病院の作業療法室はスタッフ2人と実習生5～10人で運営されている。実習生はバックマイ病院に併設されている看護学校や専門学校から来ており、スタッフに交じって作業療法を行っていた。話を聞いたところ、作業療法は患者さん1人当たり1時間で、1人のスタッフは1時間に4人担当することになっている。実際1人では全員を1時間ずっと見ることができないので、患者さん1人につき15分をスタッフが受け持ち、残りの45分は実習生が担当している。患者さんが多い時には1日に40人以上来るためスタッフの圧倒的な人数不足となっており、実習生は即戦力として捉えられていた。そのため私と林さんも1週目の途中からはずっと作業療法に参加することになり、何人かの患者さんを担当させていただいた。

作業療法の流れとして、始めの10分～15分間ROMエクササイズを行い、そのあと患者さんに合わせてリーチ動作や把持などの訓練を行っていた。訓練用具は箸やスプーン、ペグボードなどさまざまであった。手作りのものが多く、箸にはピンセットを取り付けたり、ストローにスプーンを差し込んで柄の部分を太くしたり、工夫がいくつも見られた。

日本と決定的に違ったところは作業療法で革細工や刺しゅうなどの作品を作らないことであった。また患者さんの家族の協力が非常に大きく、毎朝早くから病院の前で待っている人が非常に多かった。病院内でも食事や移動の介助は基本家族が行い、作業療法室にも家族に連れられて来る人を多く見た。



国立バクマイ病院作業療法室



作業療法で使用する訓練用具(箸)

《ベトナムの生活について》

・交通

ベトナムは日本に比べ交通量が多く、特にバイクが至る所で見られた。交通ルールもあまり守られておらず、ヘルメットを着用していなかったり、信号無視や追い抜きなどが非常に多かった。日本のように車線が無いので、小回りの利くバイクが多く使われているのを感じた。ベトナムの交通事情を見て、交通事故による頭部外傷が死因の上位に挙がることに納得した。

・食事

ベトナムではフォーやブンチャー等の麺類が豊富であったが、バインセオ(ベトナム風お好み焼き)やバインミー(フランスパンを使ったサンドイッチ)、生春巻きといった食べ物も美味しかった。米もあり、日本人に合う味付けが多かったように思う。

甘味はフルーツが中心で、ホテルの朝食にも毎回出されていた。パパイヤやドラゴンフルーツなど食べたことのないものが多かったが、どれもとても美味しかった。

滞在中一番気を付けていたのが水で、水道水はともかくお店で出される氷も摂取しないほうが良いと注意されていたためスーパーでペットボトルを買い持ち歩くようにしていた。

・物価

ベトナムの物価は日本に比べて安い。ベトナムの貨幣はドンで、2万ドン=約100円。病院の敷地内の食堂で1食約200円と安かった。また、ホテルから病院までは毎回タクシーを利用していたが、車で約15分の距離で約500円と利用しやすかった。



ベトナムの交通の様子



ブンチャーと揚げ春巻き



ドラゴンフルーツ



食堂の昼食

《さいごに》

2週間という期間ではあったがとても貴重な体験をすることができた。国立病院という一般では入れないところで患者さんに作業療法を行う経験をさせていただき、机に向かって勉強するだけではわからないことを多く学ぶことができたと思う。この経験を生かしてこれからの学習に生かしていきたいと強く思った。

最後になりましたが、このような貴重な経験ができる機会をいただきましたこと、世界展開事業、神戸大学、国立バックマイ病院及びお世話になったすべての方々に深く感謝致します。



リハビリテーションセンター前で



バックマイ病院のスタッフ・実習生と